安全データシート

# Diesel Cetane Check Fuel, high

版番号 1.6　　作成改訂日 2015-08-03

## 項目1. 化学物質等及び会社情報

**製品情報**

製品名　：　Diesel Cetane Check Fuel, high
材質　：　1024264, 1024267, 1024265, 1024266, 1024263, 1104936

**会社名**　：　シェブロンフィリップス化学株式会社
Specialty Chemicals
〒103-0022 東京都中央区日本橋
室町3丁目3番9号

局部の　：　See Company Address

**緊急連絡電話番号:**

**健康**:
866.442.9628（北米）
1.832.813.4984（国外）
**輸送**:
North America: CHEMTREC 800.424.9300 or 703.527.3887
Asia: +800 CHEMCALL (+800 2436 2255) China:+86-21-22157316
EUROPE: BIG +32.14.584545 (phone) or +32.14583516 (telefax)
South America SOS-Cotec Inside Brazil: 0800.111.767 Outside Brazil: +55.19.3467.1600

担当部門　：　製品安全性および毒性グループ
電子メールアドレス　：　SDS@CPChem.com
ウェブサイト　：　www.CPChem.com

## 2. 危険有害性の要約

**物質または混合物の分類**
**JISZ 7252-2009及びJISZ 7253-2012に 従ったGHS分類及びラベル表示(GHS 2011)**

**分類**

：　引火性液体, 区分3
急性毒性, 区分4, 吸入
皮膚腐食性及び皮膚刺激性, 区分2
発がん性, 区分2
特定標的臓器毒性, 反復ばく露, 区分2, 肝臓, 血液
吸引性呼吸器有害性, 区分1
水生環境有害性(急性), 区分2

水生環境有害性(長期間), 区分2

**ラベル付け**

シンボル :

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : H226: 引火性の液体および蒸気
H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
H315: 皮膚刺激。
H332: 吸入すると有害。
H351: 発がんのおそれの疑い。
H373: 長期にわたる, 又は反復ばく露により臓器 (肝臓, 血液) の障害のおそれ
H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き : **安全対策:**
P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P210: 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
P233: 容器を密閉しておくこと。
P240: 容器を接地すること/アースをとること。
P241: 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/機器を使用すること。
P242: 火花を発生させない工具を使用すること。
P243: 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P260: ダスト／煙／ガス／噴霧／蒸気／スプレーを吸わないこと。
P264: 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P273: 環境への放出を避けること。
P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
**応急措置:**
P301 + P310: 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
P303 + P361 + P353: 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P304 + P340 + P312: 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
P308 + P313: ばく露又はばく露の懸念が

ある場合：医師の診断/手当てを受けること。
P331: 無理に吐かせないこと。
P332 + P313:
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
P362 + P364:
汚染された衣類を脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。
P370 + P378: 火災の場合：消火するために乾燥砂，粉末消火剤（ドライケミカル）
または耐アルコール性フォームを使用すること。
P391: 漏出物を回収すること。
**保管:**
P403 + P235:
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405: 施錠して保管すること。
**廃棄:**
P501:
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成及び成分情報

別名 : Diesel Special Test Fuel
High Cetane Check Fuel Diesel

分子式 : Mixture

| 化学名 | CAS番号 | 濃度 | 化審法(ENCS)/安衛法(ISHL) 番号 |
|---|---|---|---|
| Fuels, diesel, no. 2 | 68476-34-6 | 100% | (9)-1702 |

## 4. 応急措置

一般的アドバイス : 危険域から避難させる。
この安全データシートを担当医に見せる。
本物質を飲み込んだり吐いたりした場合、生命にかかわる可能性のある深刻な肺炎を引き起こすことがある。

吸入した場合 : 大量に曝露した場合は、医師の手当てを受ける。
意識がない場合は、回復体勢にし、医師の指示を受ける。

皮膚に付着した場合 : 皮膚の炎症が継続する場合は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合は、水で十分にすすいでください。
衣服に付いた場合、衣服を脱ぐ。

| | | |
|---|---|---|
| 眼に入った場合 | : | 予防措置として、水で眼を洗浄する。<br>コンタクトレンズをはずす。 損傷していない眼を保護する。<br>洗浄中は眼を大きく開ける。<br>眼刺激が治まらない場合は、専門医に相談する。 |
| 飲み込んだ場合 | : | 気道を確保する。<br>意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。<br>症状が持続する場合は、医師に連絡する。<br>直ちに被災者を病院に連れて行く。 |

## 5. 火災時の措置

| | | |
|---|---|---|
| 引火点 | : | 69.3 -C (156.7 -F)<br>方法: ASTM（米国試験材料協会） D 93 |
| 自然発火温度 | : | データなし |
| 消火剤 | : | 耐アルコール泡消火剤. 二酸化炭素（CO2）. 粉末消火剤. |
| 使ってはならない消火剤 | : | 大型棒状の水. |
| 特有の危険有害性 | : | 火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。 |
| 消火を行う者の保護 | : | 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。 |
| 詳細情報 | : | 汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。<br>火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。<br>火災時の安全上の理由から、缶をそれぞれ別々に保管する<br>密閉容器を水スプレーで完全に冷却する。 |
| 火災および爆発の防止 | : | 火炎や白熱物質に向けてスプレーしてはいけない。<br>静電気放電（有機物の蒸気を発火させる場合あり）を防止するために必要な処置をとる。<br>炎、熱および発火源から遠ざける。 |

## 6. 漏出時の措置

| | | |
|---|---|---|
| 人体に対する予防措置 | : | 保護具を使用する。 十分な換気を確保する。<br>付近の発火源となるものを取り除く。<br>安全な場所に避難する。<br>蒸気がたまると爆発性濃縮物が生成されるので要注意。蒸気は低いところにたまる可能性あり。 |
| 環境に対する注意事項 | : | 製品を排水施設に流してはならない。<br>安全を確認してから、もれやこぼれを止める。<br>製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 除去方法 | : | 漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤<br>(砂、土、珪藻土、バーミキュライト等)<br>を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる (項目 13 を参照)。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

| | | |
|---|---|---|
| 安全取扱注意事項 | : | エアゾールの発生を避けること。 蒸気/粉塵を吸い込まない。<br>曝露を避ける一使用前に特別指示を受ける。<br>皮膚や眼への接触を避けること。 個人保護については項目 8 を参照する。 作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。<br>静電気放電に対して予防処置手段をとること。<br>作業室の換気や排気を十分に行う。<br>内部が陽圧になっていることがあるので、ふたを開ける場合には、慎重に行う。<br>洗浄水は、国及び地方自治体の規制に従い処分する。 |
| 安全取扱い注意事項 | : | 火炎や白熱物質に向けてスプレーしてはいけない。<br>静電気放電（有機物の蒸気を発火させる場合あり）を防止するために必要な処置をとる。<br>炎、熱および発火源から遠ざける。 |

**保管**

| | | |
|---|---|---|
| 保管場所および容器の必要条件 | : | 禁煙。 容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。<br>一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。 ラベルの予防措置を遵守する。<br>電気設備及び作業資材は技術安全基準に準拠していなければならない。 |

## 8. ばく露防止及び保護措置

**設備対策**

大気中濃度を曝露ガイドライン/制限未満に制御するよう適切な換気を行うこと。
工学的制御の設計や個人用保護具の選択の際には、本物質の潜在的危険性（第2節参照）、適用される曝露限度、作業活動、および作業場にあるその他の物質を考慮すること。
工学的制御または作業方法が、本物質の有害レベルにおける曝露の予防に十分でない場合には、以下の個人用保護具を使用することが推奨される。
保護は通常、限定的な時間または一定の状況下に対して提供されるものであるため、ユーザは装置に付属するすべての指示事項および制限事項を読んで理解しておくこと。

**保護具**

| | | |
|---|---|---|
| 呼吸用保護具 | : | 通常の大気圧下において最小酸素容量の19.5容量%を維持するために、通気または工学的制御が適切でない限り、NIOSH認定送気呼吸器を着用すること。<br>空中への散布レベルが有害となるような作業を行う場合は、有 |

機蒸気用の濾過式呼吸用保護具など、NIOSH認定の呼吸用保護具を着用すること。. 有機系蒸気用の空気清浄呼吸器.
制御できない放出の可能性がある、曝露レベルがわからない場合、または濾過式呼吸器では十分な保護が行えない場合には、陽圧の給気式呼吸器を使用すること。.

手の保護具 : ある特定の作業場の適正度は、防護手袋製造者との相談で決定すべきである。.
手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。.
手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候わずかにある場合でも、手袋を破棄し取り替えなければならない。.

眼の保護具 : 純水入りの眼洗浄ボトル. 密着性の高い安全ゴーグル.

皮膚及び身体の保護具 : 適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。. 必要に応じて着用:.
難燃静電気保護服。. 作業者は、静電気防止履物をはく。.

衛生対策 : 使用中は飲食しないこと。. 使用中は禁煙。.
休憩前や終業時には手を洗う。.

## 9. 物理的及び化学的性質

**基礎物理および化学特性の情報**

**外観**

形状 : 液体
物質の状態 : 液体 で 40 -C (104 -F)
(101.30 kPa)

色 : 黄白色から茶色（染色されていない場合）、赤色から紫色（染色されている場合）
臭い : 刺激が少ない

**安全性データ**

引火点 : 69.3 -C (156.7 -F)
方法: ASTM（米国試験材料協会） D 93

爆発範囲の下限 : データなし

爆発範囲の上限 : データなし

酸化特性 : 非該当

自然発火温度 : データなし

分子式 : Mixture

分子量 : 適用されない

pH : 適用されない

| | |
|---|---|
| 流動点 | : -15 -C(5 -F)<br>方法: ASTM D97 |
| 沸点／沸点範囲 | : 183 - 352 -C(361 - 666 -F)<br>方法: ASTM D 86 |
| 蒸気圧 | : 0.10 hPa<br>方法: ASTM D5191 |
| 比重（密度） | : 0.87<br>で 16 -C(61 -F) |
| 密度 | : 0.8333 g/cm3<br>方法: ASTMD 4052 |
| 水溶性 | : ごくわずか |
| n-オクタノール／水分配係数 | : データなし |
| 動粘度 | : 2.4 cSt<br>で 40 -C(104 -F)<br>方法: ASTM（米国試験材料協会） D 445 |
| 相対蒸気密度 | : データなし |
| 蒸発速度 | : データなし |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 化学的安定性 | : この材料は、通常の周囲温度と予想されるストレージの下に安定したと見なされ、温度や圧力の条件を処理する。 |

**危険有害反応可能性**

| | |
|---|---|
| 避けるべき条件 | : 熱、炎、火花。. |
| その他のデータ | : 指示通りに保管または塗布した場合は、分解することはありません。. |

## 11. 有害性情報

**急性経口毒性**

| | |
|---|---|
| Fuels, diesel, no. 2 | : LD50: > 5,000 mg/kg<br>種: ラット<br>性: オスおよびメス |

方法: OECD 試験ガイドライン 401

**急性吸入毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : LC50: 4.1 mg/l
曝露時間: 4 HR
種: ラット
性: 男性および女性
試験環境: ダスト/噴霧
方法: OECD 試験ガイドライン 403
被験物質: 該当

**急性経皮毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : LD50経皮: > 4,300 mg/kg
種: ウサギ
性: 男性および女性
被験物質: 該当

**皮膚刺激性**

Fuels, diesel, no. 2 : 皮膚に刺激性。

**眼への刺激**

Fuels, diesel, no. 2 : 眼への刺激なし

**感作**

Fuels, diesel, no. 2 : 動物実験では感作性なし。

**反復投与毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : 種: ラット, 男性および女性
性: 男性および女性
投与経路: 経皮
投与量: 0, 30, 125, 500 mg/kg
曝露時間: 13 wks
曝露回数: daily, 5 days/week
NOEL 無影響濃度（量）: 30 mg/kg
方法: OECD Guideline 411
標的臓器: 胸腺, 肝臓, 骨髄
本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

種: ラット, 男性および女性
性: 男性および女性
投与経路: 吸入(ダスト/噴霧/煙)
投与量: 0, 0.35, 0.88, 1.71 mg/l
曝露時間: 13 wks
曝露回数: Twice/wk
NOEL 無影響濃度（量）: > 1.71 mg/l
方法: OECD ガイドライン 413

**発がん性**

Fuels, diesel, no. 2 : 種: マウス
性: オス
投与量: 0, 25 ul
曝露時間: lifetime
曝露回数: 3 times/wk
備考: 中程度の皮膚発癌物質

**発生毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : 種: ラット
投与経路: 吸入
投与量: 0, 86.9, 408.8 ppm
曝露回数: 6 h/d
試験期間: GD 6-15
方法: OECD ガイドライン 414
NOAEL Teratogenicity: 408.8 ppm
NOAEL Maternal: 408.8 ppm
本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

種: ラット
投与経路: 経皮
投与量: 30, 125, 500, 1000 mg/kg
曝露時間: daily
試験期間: GD 0-20
方法: OECD ガイドライン 414
NOAEL Teratogenicity: 125 mg/kg
本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

Diesel Cetane Check Fuel, high
**吸引性呼吸器有害性** : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。.

**CMR 影響**

Fuels, diesel, no. 2 : 発がん性: 動物実験において発がん性の限定的な証拠がある
催奇形性:
動物実験では、胎児の成長への影響は見られなかった。

Diesel Cetane Check Fuel, high
**詳細情報** : 溶剤は皮膚を脱脂することがある。.

## 12. 環境影響情報

**魚毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : LL50:3.2 mg/l
曝露時間:96 HR
種:Menidia beryllina （シルバーサイド）
半静止試験 方法:EPA/600/4-90/027

**ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : EC50:68 mg/l
曝露時間:48 HR
種:Daphnia magna （オオミジンコ）
方法:OECD 試験ガイドライン 202

**藻類に対する毒性**

Fuels, diesel, no. 2 : EbC50:10 mg/l
曝露時間:72 HR
種:Raphidocellus subcapitata （藻類）
止水式試験 分析モニタリング:非該当
方法:OECD 試験ガイドライン 201

生分解性

Fuels, diesel, no. 2 : 好気性
結果:易分解性ではない。
57.5 %
試験期間: 28 TEN
方法:OECD 試験ガイドライン 301F

**環境毒性アセスメント**

水生環境有害性(急性)
Fuels, diesel, no. 2 : 水生生物に毒性。

水生環境有害性(長期間)
Fuels, diesel, no. 2 : 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

PBT アセスメントの結果
Fuels, diesel, no. 2 : 分類されていない PBT (難分解性で生物蓄積性の有毒)物質,
分類されていない vPvB
(極めて難分解性で高い生物蓄積性)物質

生態系に関する追加情報 : 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

## 13. 廃棄上の注意

このSDSの情報は、出荷される製品のみに関連する。

本物質は意図された目的に使用し、可能であれば再生利用すること。廃棄する必要がある場合、本物質は、RCRA（40 CFR
261）に基づき米国EPAに定義された、またはその他の州や地方自治体により定義された、有害廃棄物の基準が適用されることがある。適切な判断を下すために、所定の物理的性質の測定および規制対象物質の分析が必要な場合がある。本物質が有害廃棄物として分類されている場合には、連邦法により認可済みの危険廃棄物処理施設にて廃棄することが義務付けられている。

| | | |
|---|---|---|
| 製品 | : | 本製品を排水溝、水路、地面に流さないこと。<br>薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。<br>認可された廃棄物処理業者へ委託する。 |
| 汚染容器及び包装 | : | 残りの容器を空にする 製品入り容器と同様に処分する。<br>空の容器を再使用しない。<br>空のドラムを燃やしたり、切断トーチを使用しないこと |

## 14. 輸送上の注意

ここに示される輸送の説明はバルク輸送に関するもののみであり、それ以外の包装済み製品輸送には適用されない（規制の定義を参照）。
他の輸送説明要件（専門的名称など）については、米国内外モードに特有、および量に特有の、適切な危険物取扱規定を調べること。
従って、ここに示す情報は本物質に対する船荷証券輸送記述に必ずしも一致しないことがある。
物質の引火点は、SDSと船荷証券との間にわずかな違いがあることがある。

**US DOT (UNITED STATES DEPARTMENT OF TRANSPORTATION)**
UN1202,DIESEL FUEL,III

**IMO / IMDG (INTERNATIONAL MARITIME DANGEROUS GOODS)**
UN3082,ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.,(DIESEL FUEL),9,III,(69.3-C),MARINE POLLUTANT,(DIESEL FUEL)

**IATA (INTERNATIONAL AIR TRANSPORT ASSOCIATION)**
UN3082,ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.,(DIESEL FUEL),9,III

**ADR (AGREEMENT ON DANGEROUS GOODS BY ROAD (EUROPE))**
UN1202,DIESEL FUEL,3,III,環境危険有害性,(DIESEL FUEL)

**RID (REGULATIONS CONCERNING THE INTERNATIONAL TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS (EUROPE))**
UN1202,DIESEL FUEL,3,III,環境危険有害性,(DIESEL FUEL)

**ADN (EUROPEAN AGREEMENT CONCERNING THE INTERNATIONAL CARRIAGE OF DANGEROUS GOODS BY INLAND WATERWAYS)**
UN1202,DIESEL FUEL,3,III,環境危険有害性,(DIESEL FUEL)

**MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）**

## 15. 適用法令

**国内法規制**

**毒物及び劇物取締法**

：非該当

**労働安全衛生法**

| | |
|---|---|
| 名称等を通知すべき危険物及び有害物 | ：非該当 |
| 労働安全衛生法施行令 － 別表第一（危険物） | ： |
| 製造の許可を受けるべき有害物 | ：非該当 |
| 表示要求の対象となる危険物質 | ：非該当 |
| 有機溶剤中毒予防規則 | ：非該当 |
| 鉛中毒予防規則 | ：非該当 |
| 製造等が禁止される有害物 | ：非該当 |
| 特定化学物質障害予防規則 | ：非該当 |
| 四アルキル鉛中毒予防規則 | ：非該当 |
| | ：非該当 |
| | ：非該当 |
| 健康障害防止指針公表物質 | ：非該当<br>収載 |

**化審法**

：特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

**化学物質排出把握管理促進法**

：非該当

**その他の規制**

| | | |
|---|---|---|
| 消防法 | : | 引火性液体<br>第2石油類<br>危険等級III |
| 火薬類取締法 | : | 非該当 |
| 船舶安全法 | : | 危規則第2,3条危険物告示別表第1: 引火性液体類 |
| 航空法 | : | 施行規則第194条危険物告示別表第1: 引火性液体 |
| 高圧ガス保安法 | : | 非該当 |

**既存化学物質リスト**

| | | |
|---|---|---|
| 欧州 REACH | : | この混合物は、Regulation (EU) No. 1907/2006 (REACH)<br>に従い予備登録されている成分のみを含んでいる。 |
| 米国 TSCA | : | TSCA インベントリに記載 |
| カナダ DSL | : | この製品の全成分は、カナダDSLリストに載っている。 |
| オーストラリア AICS | : | インベントリーに記載されているか、従っている |
| ニュージーランド NZIoC | : | インベントリーに記載されているか、従っている |
| 日本 ENCS | : | インベントリーに記載されているか、従っている |
| 韓国 KECI | : | インベントリーに記載されているか、従っている |
| フィリピン PICCS | : | インベントリーに記載されているか、従っている |
| 中国 IECSC | : | インベントリーに記載されているか、従っている |

## 16. その他の情報

**詳細情報**

レガシー SDS 番号 : CPC00523

前バージョンからの大幅な変更は、余白に強調表示されている。
本バージョンは以前のすべてのバージョンと差し替えられる。

このSDSの情報は、出荷される製品のみに関連する。

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等を、安全に行っていただくために作成されたものです。
記載されている情報はいかなる保証もするものではありませんし、品質を特定するものでもありません。また、このMSDSのﾃﾞｰﾀはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料との組み合わせ使用に関しては有効ではありません。

| 安全データシートで使用されるキーまたは凡例から略語や頭字語まで | | | |
|---|---|---|---|
| ACGIH | 米国産業衛生専門家会議 | LD50 | 50%致死量 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| AICS | オーストラリア既存化学物質インベントリー | LOAEL | 最小有害影響量 |
| DSL | カナダ国内物質リスト | NFPA | 米国消防庁 |
| NDSL | カナダ非国内物質リスト | NIOSH | 米国国立労働安全衛生研究所 |
| CNS | 中枢神経系 | NTP | 米国国家毒性プログラム |
| CAS | 化学情報検索サービス機関 | NZIoC | ニュージーランド化学物質台帳 |
| EC50 | 有効濃度 | NOAEL | 無毒性量 |
| EC50 | 50%影響濃度 | NOEC | 無影響濃度 |
| EGEST | EOSCA一般暴露シナリオツール | OSHA | 労働安全衛生庁 |
| EOSCA | 欧州油性化学物質協会 (European Oilfield Specialty Chemicals Association) | PEL | 許容暴露限界 |
| EINECS | 欧州既存商業化学物質インベントリー | PICCS | フィリピン商業化学物質インベントリー |
| MAK | ドイツ最大許容濃度 | PRNT | 推定無毒性 |
| GHS | 世界調和システム | RCRA | 資源保全再生法 |
| >= | 以上 | STEL | 短時間暴露限界 |
| IC50 | 50%阻害濃度 | SARA | スーパーファンド改正・再承認法 |
| IARC | 国際癌研究機関 | TLV | 限度値 |
| IECSC | 中国現有化学物質名録 | TWA | 時間加重平均 |
| ENCS | 日本既存化学物質インベントリー | TSCA | 有害物質規制法 |
| KECI | 韓国既存化学物質目録 | UVCB | 組成が不明または不定の構成物質、複雑な反応生成物及び生体物質 |
| <= | 以下 | WHMIS | 作業場危険有害性物質情報システム |
| LC50 | 50%致死濃度 | | |